

キッズサポート部 会員からのメッセージ

キッズサポート部のメンバーが入会したきっかけや、読み聞かせ活動への熱い思いを語ります。
きっかけも思いも様々ですが、子どもたちにおはなしの楽しさを伝えたい気持ちは全員共通です。
ご興味ある方、見学もできますので、お気軽にお問い合わせください。
キッズサポート部一同お待ちしております！！

本年4月「図書館ボランティア」の活動が25周年を迎えました。長い歴史を支えてきた多くの会員の皆様方及び、草加市立中央図書館館長並びに職員の皆様方に対し心からの感謝を申し上げますと共に、合わせてこの歴史を重く受け止め、今後も益々の発展のために誠心誠意努力する所存であります。何分よろしくお願い申し上げます。

さて、今多くの子どもたちに対し、大変危惧を抱いておることがあります。それは「テレビゲーム」で死者がリセットされ簡単に生き返る環境の中にあることです。絵本（児童書）に流れるテーマの一つに「死と再生」の物語がありますが、その傑作に私は『100万回生きたねこ』（佐野洋子、講談社）をあげたいと思います。100万回生きたねこは、自分が世界中で一番エライと思っていましたから、その自己愛の繰り返しが人生だと思っていました。そのねこが自分よりも愛しいねこに出会うのです。人を愛するということを知ることによって、100万回生まれ変わり続けた「輪廻転生」の迷いの世界を断ち切ることができたのです。「ねこはもう、けっして 生きかえりませんでした」という結びは、愛という悟りを得て、永遠なる仏さまとして誕生したのだと理解できます。

この絵本は、昭52年に第1刷が発刊され、今年で126刷を数えます。人は人を愛するために生まれてきたのだというメッセージが、半世紀近くその美しい絵とともに支持されてきました。死は滅びても生の否定でもなく、死がある生だからかけがえがなく愛しいのだということが再生の物語となりました。

今こそ「死と再生」が持つ豊かな人間性と人生への問いかけを、絵本好きな子どもたち、新しい世代に伝えていかねばと考えている今日此の頃です。

澤崎 義紀

私は草加市で育った。子どもの頃はまだ田んぼや畑の広がる町だった…小学校高学年になると自転車で文化センター横の図書館によく通った。ちょっと薄暗いけど窓から光の入る図書館。20年近く経って戻ってきた街には大きく立派な市立図書館ができていた。図書館や書店、古書店街は私の心をワクワクさせるし、癒しの場所でもある。

子どもと関わる活動をしている私は、読み聞かせを通して子どもたちに絵本や本の魅力をもっと知ってほしいと願っている。マッチングアプリではないけれど、数ある本の中から自分の心をつかむ一冊に出会えたときの喜びは言葉では表せない。わぁ～素敵な本と出会っちゃった！となる。手元において、また読んで。その世界に没頭させてくれる。絵本はとくにそう。絵がステキだったり物語がキュンとさせてくれたり心や頭の中の雑音をスッと消してくれる。私にとって本はそんな大切な存在。L.V.S.に入ってからさらに奥深く絵本や絵本作家さんを知る方法を教えていただく機会が増え、本とのラブストーリーが続いている。L.V.S.には7つの魅力的な部があるので色々な部の方と本について語り合えたら嬉しい。地元こんなに(図書館)楽しい場所があるなんて…今この草加市で育っている子どもたちにも、そう思ってもらえるように何かできたらいいなと日々思っています。

MINI

ボランティアの入会のきっかけは、草加に越して来て図書館が近くにあり、活動内容に共感したからです。

学生時代の友人が児童学部で絵本をととても大切に、自分用と読み聞かせ用の2冊を購入していた事を思い出し、久しぶりに絵本に触れてみました。しかし子育て中、読み聞かせはしていましたが、子どもは読書が大好きで一人読みが早かったため、長いブランクがあり自信はありませんでした。又空いていたグループが乳幼児対象だったので、選書、手遊びなど戸惑うことが多かったと思います。独自に都内や近隣の大学の講習に参加し、少しずつ乳幼児対象の読み聞かせに慣れてきました。

現在の金曜日は乳幼児が沢山参加してくれ、ママたちもとても熱心でこちらも刺激を受けています。赤ちゃん絵本もとても充実してきているので本を選ぶ楽しさもあり、触れ合い遊び手遊びと親子でスキンシップをし、楽しむ時間にしたいと活動しています。そして、私自身にも思わぬ効果がありました。絵本の魅力を感じ、大人のための絵本にも目覚めた事です。

S.O

子どもたちの笑顔に励まされ

私の定年退職が近づいても今後のことが決まらないうちに、同僚が「知り合いに読み聞かせの勉強会をしている人がいるよ」と教えてくれました。その方が今は亡き草野直行先生だったのです。勉強会だけに参加するつもりで図書館を訪れました。

ところがキッズの班に入って活動しないと勉強会には参加できないとのことでした。

すぐに子どもたちの前で読むのは無理と半年待ってもらい、まず勉強会に参加しました。

6ヶ月が過ぎ、読み聞かせデビューでは喉がカラカラになったのを今でも鮮明に覚えています。勉強会では先生の指導を録音して練習しました。それが習慣になり、読み聞かせの練習でも録音して聞き直すようにしました。

キッズに入って十数年経ちましたが、今でも読み聞かせる絵本（予備も含めて）を録音しながら練習しています。

ちいさいうちに住むがまくんのつぶやき

先日とある児童書に関する講座に参加する機会がありました。
瀬田貞二さんがおっしゃった「行きて帰りし物語」について改めて学ぶことができました。

物語の主人公が冒険に挑み、楽しいことも、困難なことも経験し、最後は元の場所へに帰ってゆく。

子どもたちは物語を聞きながら、心の中で主人公と共に冒険し、物語が終わって、家族や安心できる人のもとに帰ってくると、達成感に満ちた表情を見せる時があります。幼児や園児が昼間は集団の中で精一杯過ごし、夕方迎えに来る家族と、ほっとした気持ちで家路につく。その時の安堵感が、「行きて帰りし物語」と重なるのでしょうか。
子どもたちがそんな気持ちになるような物語を選びたいですね。



イラスト：わんぱぐ

入会・見学のお問い合わせは

こちらから →

